

# 週間感染症情報

2023年22-24週 2023年5月29日より2023年6月18日まで

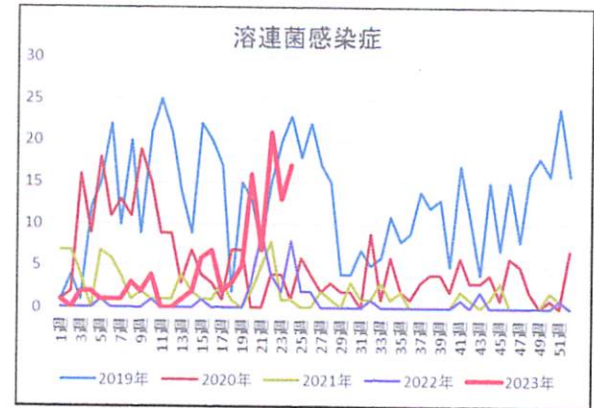
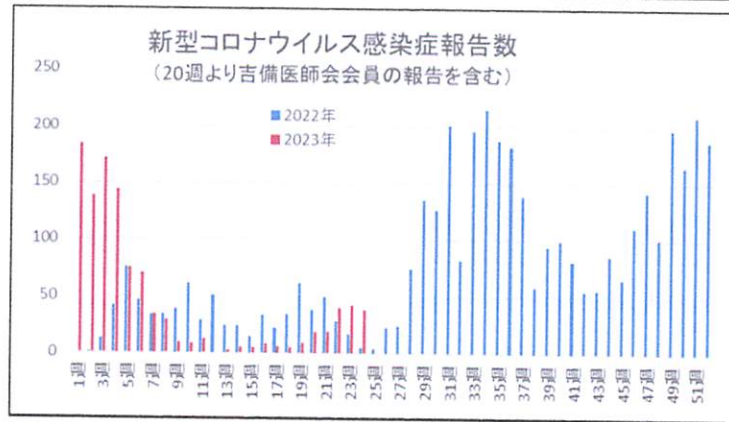
22週 23週 24週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)			1
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症	21	13	17
手足口病	3	7	8
ヘルパンギーナ	10	14	5
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	72	64	46
ロタウイルス(再掲)			
便アデノウイルス(再掲)		2	
突発性発疹	2	1	
伝染性膿痂疹(とびひ)	4	4	3
ヘルペス性口内炎			
アデノウイルス感染症	5	3	3
RSウイルス感染症	5	9	7
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス	1		
インフルエンザ		3	
インフルエンザ A		3	
インフルエンザ B			
新型コロナウイルス感染症	40	42	38

22~24週の3週間分の報告です。1月6日に発令された岡山県のインフルエンザ注意報は6月8日に解除されました。新型コロナウイルス感染症は20週より吉備医師会の先生方の報告を含みます。多くは成人例でおよそ報告数の半数です。左下のグラフの様に、じわじわと増加しています。若いワクチン未接種の患者さんを見かけるようになりました。周囲に発熱者がいるにもかかわらず、感染対策をせずにイベントに参加していることも多いようです。今後は、家族内感染等で流行が拡大していくと思います。市内でも第9波が始まっています。

感染対策の緩和によって、今まで抑えられていた多くの感染症が増加しています。特に溶連菌感染症は増加しており、コロナとの合併例が報告されています。咽頭発赤が強い場合は溶連菌感染症を疑って検査をする必要があります。右下のグラフは、溶連菌感染症の最近5年間の報告数です。コロナの感染対策が始まった2020年4月よりは著明に減少し5名前後でした。コロナが5類に移行後の2023年17週以後増加して例年通りの報告数になっています。

エンテロウイルスによる、手足口病・ヘルパンギーナが増えてきました。園ではクラス単位で流行しています。手足口病は高熱のないタイプの流行のようです。ヘルパンギーナは、突然の高熱・嘔吐などで始まる例が多く数日で解熱します。解熱して食事がとれて元気であれば登園できます。ウイルスは便に数週間排泄されますので、クラス内のほとんどが感染します。体調不良の場合は休み、手洗い・換気、周囲の感染状況によるマスクの着用は引き続きお願いします。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> )